

2020 | 秋 |

あんず

K y o r i n M a g a z i n e A n z u

vol. 4



医学部創立50周年

1970年に創立された杏林大学医学部は、今年で50周年を迎えました。1期生61名が卒業してから現在までに卒業生の総数は4,322名となり、北海道から沖縄まで全国で日本の医療を支えています。



医学部長
渡邊 卓

良き医師の育成を念頭に さらなる発展を

2020年は日本を含め全世界が新型コロナウイルス感染症の蔓延という予期せぬ事態に直面し、人類の歴史にも記憶されるべき特異な年となってしまいましたが、今年は、当医学部にとって創立50周年という記念すべき節目の年にあたります。

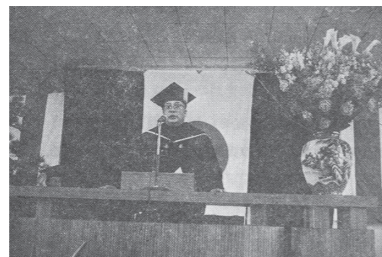
この50年の間に当医学部は4,000名を超える医師を世に送り出し、我が国における医育機関として確固たる地位を築くに至りました。これは創設者松田進勇先生をはじめとする諸先輩方のご尽力とともに、各方面からの絶大なご支援によるものと、ここに改めて厚く御礼を申し上げます。

今年4月には日本医学教育評価機構より、当医学部の医学教育プログラムが世界医学教育連盟(WFME)の定めるグローバルスタンダードに適合しているとの認定を受けることができました。一方、三鷹キャンパスでは医学部教育に関連する最新の設備を備えた新医学部講義棟の建設が始まります。このように、次なる50年に向けて、当医学部の教育環境は着々と整備されつつあります。

今後とも、教育の目標である「良き医師の育成」を念頭に、当医学部の着実な発展を目指して教職員一同、全力を尽くして参りますので、引き続き皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

50年の歩み

- 1970年5月 医学部創立
八王子で進学課程(教養課程)を開始
- 1972年4月 三鷹で専門課程を開始
- 1976年3月 第1回卒業式
- 1979年4月 三鷹で6年間一貫教育開始
- 1983年4月 新講義棟完成
- 1993年4月 学生による教科ごとの授業評価実施
- 2002年4月 OSCE(客観的臨床能力試験)導入
- 2003年4月 医学教育学教室開設
- 2004年2月 CBT(Computer-Based Testing)導入
- 2005年7月 海外クリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習)開始
- 2016年3月 第1回白衣式を実施
- 2020年4月 医学部の教育プログラムが国際基準に認定



1970年5月 医学部開学式・入学式
松田進勇初代理事長は、開学宣言で「医師の仕事は崇高な聖職である。医師になる前に、まず立派な社会人であれ」と述べた



1976年3月 第1回卒業式
61名に学位記を授与



1970年4月 八王子校舎完成
5月から授業が開始された



2016年3月 第1回白衣式
臨床実習の前に、学生達は医師への決意を新たにした



現在の三鷹キャンパス

医学部創立50周年記念祝賀会延期のお知らせ

2020年11月7日に予定していた祝賀会は、新型コロナウイルス感染症を踏まえ、延期させていただきました。ご了承ください。関係者の皆様へは改めてご連絡申し上げます。

新校地の整備状況

教育環境整備のため、2017年に着手した新校地(医学部付属病院 高度救命救急センター北側)の建設状況をご報告します。

体育館

●地上3階建て ●延べ床面積:約5,570㎡

- 1階: バスケットボールコート2面のアリーナ
- 2階: 柔道場、剣道場、スポーツジムなど
- 3階: 約3,000人収容の観覧席

2020年8月3日には上棟式が行われ、清祇の儀や上棟の儀などの後、鉄骨梁の吊り上げが行なわれました。竣工予定は2021年3月です。



2020年9月末撮影

医学部講義棟

●免震構造 ●地上6階建て ●延べ床面積:約11,000㎡

国内外の先進的な医学部施設を参考に、学生や教員のニーズを取り入れ、使いやすい機能性を備えた新講義棟の建設を計画しています。

1・2階は学生達が自由に学べるラーニングセンター。3階以上は、少人数用のチュートリアルルームから150人規模の講義まで対応できる大小さまざまな講義室を設ける予定です。2020年11月建設着工、2022年3月頃の竣工を計画しています。



新講義棟の外観イメージ



ラーニングセンターイメージ



講義室イメージ

あんず

2020 秋 | vol.4 |

Contents

- 02 …… 医学部創立50周年
- 03 …… 新校地の整備状況
- 04 …… 平成31年度事業報告
- 05 …… 平成31年度決算報告
人事情報
学事情報
- 06 …… 新型コロナウイルス感染症報告
- 07 …… 新型コロナウイルス感染症への大学の取組み
- 08 …… 学部教育の実施状況
- 09 …… 留学・国際交流
キャリア支援
- 10 …… 2020年度オープンキャンパス
学生表彰
- 11 …… 医学部付属病院
ご支援・ご寄付のお願い

平成31年度(令和元年度) 事業報告

I. 学校法人の概要(抜粋)

区 分		平成31年度		
設置する学部等		大学院：3研究科15専攻 学部等：4学部15学科 1専修学校		
学生数(収容定員)(人)		平成30年度	平成31年度	令和2年度参考
		5,453 (5,254)	5,536 (5,419)	5,598 (5,582)
教職員数(人)	本務教員(兼務教員)	694 (298)	706 (306)	707 (306)
	本務職員(その他職員)	2,353 (53)	2,307 (56)	2,432 (57)
	合計	3,047 (351)	3,013 (362)	3,139 (363)

II. 事業の概要《主要実施事業抜粋》

区 分	平成31年度 事業計画	平成31年度 事業報告	
教育・研究活動	医学部	【医学教育分野別評価受審(平成30年10月)に際して実施した自己点検に基づく医学教育体制の改善】 自己点検(カリキュラム内容を含む医学教育体制を国際的な基準に照らし総点検)において、改善を要すると判断された内容について、順次、その実施に取り組む。	自己点検において、改訂を検討することとした学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)について受審時の指摘も踏まえ、[生涯学習の要素]「リサーチマインド」等を追加し、全体的に見直し改訂を行い「杏林大学医学部教育における到達目標」との整合性を図った。また、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)内容を見直し改訂を行った。
	保健学部	【カリキュラムの評価検討】 新カリキュラム移行後の科目が学年進捗と共に理解の深まる体系的編成がなされ講義・演習、実習が適切に組み合わされているか評価検討。	各学科カリキュラムに掲げられる科目が、学生にとって学年進捗と共に理解の深まる体系的編成がなされ、講義・演習、実習が適切に組み合わされているかについて検討した。特に健康福祉学科では、社会福祉士課程の科目・学外実習時間の見直しを行い、加えて学科全体の科目編成についても見直した。
	総合政策学部	【学部組織および新カリキュラムの検討】 現行カリキュラムは開始後4年目を迎える。この間の教育・社会環境の変化は著しく、大学の社会科学系学部求められる課題・役割も一段と多様化している。こうした背景の下で学部教育の更なる質的向上を図るために、学部組織やカリキュラムに必要な見直しを行い、2年後の実施を目指した成案を得るために学部全体で鋭意検討を進める。	教務委員会を中心に現行カリキュラムの実績を詳細にわたって検討するとともに、最近の教育・社会環境の変化の中でも特に発展の著しい情報化の進展をカリキュラムの内容に反映させるべきとの考えに立ち、新カリキュラムの原案を作成。これを叩き台として学園全体における教育内容の情報化と歩調を合わせて実施するための基礎を築いた。
	外国語学部	【成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立】 2019年度に完成年度を迎える現行カリキュラムの成果の測定を実施し、その結果をもとにカリキュラムの点検・整備を行い、カリキュラム・マネジメントを確立する。	学生満足度の観点からIRデータを組み込んでカリキュラムの成果を測定し、評価を行った。多くの学生が専門科目の難易度をさほど高くないと考えていることが浮き彫りとなったことから、2021年度からの新しいカリキュラムの開発に着手することとした。
就職状況	【キャリア教育の充実強化・学部学科と連携した就職支援】 低学年には視野を広げる教育を前倒しで行うことを検討し、社会で幅広く活躍できる人材の育成・輩出を目指し、教職一体となってキャリア教育科目を運営する。 また、教員との連携・連絡を一層密にし、就活トライアル(総合)・就活シミュレーション(外語)や事前・事後指導が充実したインターンシップ(総外)を行い支援する。	1次から体系的なキャリア教育により、学生の就職に対する意識とスキルの向上、教職員が連絡を密にして就職を希望する学生は最後の一人まで面倒を見るという活動を行った。 (就職率) 保健学部 96.9% (前年度 96.7%) 総合政策学部 99.5% (前年度 98.9%) 外国語学部 98.3% (前年度 99.4%)	
入試状況	【井の頭・三鷹キャンパスを軸とした入試広報の推進】 1.東日本地域の高校に注力し志願者獲得 2.総志願者数の更新 3.本学刊行物の充実を図ると共に業者発行の刊行物やSNS等のWeb企画も有効に活用し、受験者(高校1年生・2年生も含む)・保護者及び高校教員へのアプローチを強化 4.オープンキャンパス・進路相談会等の充実 5.入学試験の円滑な運営	事業計画に掲げた左記の5項目を基本方針とし、年間をとした広報活動により本学の認知とブランド力向上を目指して、安定的な志願者の確保と合格者を入学させる歩留りを得るため、創意工夫し効率的な業務を推進した。 (総志願者数) 平成31年度 15,050名(令和2年度入学) 平成30年度 17,181名(平成31 //) 平成29年度 14,924名(平成30 //)	
付属病院	【地域に根差した特定機能病院としての役割の推進】		
	1.診療内容の質向上と将来への投資 ・新規放射線治療機器導入のための環境整備	・旧放射線治療機器を最新機器(2機種：リニアックシステム・高線量率小線源治療システム)に更新し、令和元年10月下旬から稼働。	
	2.患者の権利と病院の継続的質の改善 ・継続的な医療の質向上の推進	・病院機能評価「一般病院3」に認定(5年間) 確認審査：2020年2月(訪問審査：2018年12月条件付き認定) ・「医療被ばく低減施設」に認定(5年間)：2019年8月	
	3.医療連携の促進および医師勤務環境の改善 ・近隣医療施設との連携強化の推進 ・医師事務作業補助者の雇用の促進、医師業務負担の軽減	・「第4回医療連携フォーラム」を開催(11/14)。 出席者：227名(外部68名・院内159名) 施設見学者：10名。 ・医師事務作業補助体制：40対1。 タスクシフト：医師書類作成業務。	
4.病院組織の適正運営 ・女性医師復帰支援事業の更なる充実と活用の推進	・女医復職支援利用医師：33名 勤務形態：4日/週又は3日/週・当直免除		

事業計画の詳細は、大学HP「経営・財務情報」に掲載しています。

平成31年度(令和元年度) 決算報告

■ 資金収支計算書の概要

総資金収入は618.68億円、総資金支出は605.62億円の規模である。平成31年度の前年度繰越支払資金は61.29億円。また、平成31年度決算の翌年度繰越支払資金は、64.69億円となり、3.4億円の資金が増加した。

収入の部

科 目	31年度予算	31年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	110.84	110.03	0.81
手数料収入	5.83	4.94	0.89
寄付金収入	4.60	3.99	0.61
補助金収入	20.96	19.53	1.43
資産売却収入	0.00	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	5.38	5.32	0.06
医療収入	369.28	375.76	△ 6.48
受取利息・配当金収入	0.10	0.11	△ 0.01
雑収入	4.46	4.48	△ 0.02
借入金等収入	0.00	0.00	0.00
前受金収入	17.72	17.89	△ 0.17
その他の収入	70.11	76.59	△ 6.48
小 計	609.30	618.68	△ 9.38
資金収入調整勘定	△ 74.67	△ 82.67	8.00
前年度繰越支払資金	65.71	61.29	4.42
収入の部合計	600.34	597.30	3.04

支出の部

科 目	31年度予算	31年度決算	差 異
人件費支出	223.25	227.83	△ 4.58
教育研究経費支出	31.07	27.50	3.57
医療経費支出	177.39	188.04	△ 10.65
管理経費支出	27.46	27.03	0.43
借入金等利息支出	1.77	1.77	0.00
借入金等返済支出	9.94	9.94	0.00
施設関係支出	25.85	19.73	6.12
設備関係支出	43.35	46.09	△ 2.74
資産運用支出	21.79	13.27	8.52
その他の支出	40.88	44.37	△ 3.49
小 計	602.79	605.62	△ 2.83
資金支出調整勘定	△ 70.74	△ 73.01	2.27
翌年度繰越支払資金	68.29	64.69	3.60
支出の部合計	600.34	597.30	3.04

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

< 事業活動収支 >

		(単位：億円)			
※	内訳	減価償却額合計(教育活動収支を含む)	46.31	45.05	1.26
		教育研究経費	15.56	15.53	0.03
		医療経費	25.48	24.84	0.64
		管理経費	5.26	4.66	0.60

■ 事業活動収支決算の概要

事業活動収入計は527.16億円、事業活動支出計は521.80億円である。その結果、基本金組入前当年度収支差額は5.36億円の収入超過となった。基本金を組み入れた後の当年度収支差額は△13.30億円。平成31年度の前年度繰越収支差額△833.33億円より、基本金取崩額0.07億円を控除して、翌年度繰越収支差額は△846.56億円となった。

		(単位：億円)			
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	110.84	110.03	0.81
		手数料	5.83	4.94	0.89
		寄付金	3.63	4.05	△ 0.42
		経常費等補助金	18.06	17.60	0.46
		付随事業収入	5.38	5.32	0.06
		医療収入	369.28	375.76	△ 6.48
		雑収入	4.46	4.36	0.10
		ア) 教育活動収入計	517.50	522.09	△ 4.59
		人件費	226.19	230.13	△ 3.94
		教育研究経費	47.08	43.47	3.61
医療経費	202.88	212.37	△ 9.49		
管理経費	32.72	31.56	1.16		
徴収不能額等	0.01	0.19	△ 0.18		
イ) 教育活動支出計	508.88	517.74	△ 8.86		
A) 教育活動収支差額		8.62	4.34	4.28	
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	0.10	0.11	△ 0.01
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00	0.00
		ウ) 教育活動外収入計	0.10	0.11	△ 0.01
		借入金等利息	1.77	1.77	0.00
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00	0.00
エ) 教育活動外支出計	1.77	1.77	0.00		
B) 教育活動外収支差額		△ 1.66	△ 1.65	△ 0.01	
経常収支差額(A+B)		6.95	2.68	4.27	
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	0.00	0.00	0.00
		その他の特別収入	4.15	4.95	△ 0.80
		オ) 特別収入計	4.15	4.95	△ 0.80
		資産処分差額	2.74	2.13	0.61
		その他の特別支出	0.00	0.14	△ 0.14
カ) 特別支出計	2.74	2.28	0.46		
C) 特別収支差額		1.41	2.67	△ 1.26	
【 予備費 】		0.00	0.00	0.00	
基本金組入前当年度収支差額(A+B+C)		8.36	5.36		
基本金組入額		△ 23.37	△ 18.66		
当年度収支差額		△ 15.01	△ 13.30		
前年度繰越収支差額		△ 845.96	△ 833.33		
基本金取崩額		4.96	0.07		
翌年度繰越収支差額		△ 856.01	△ 846.56		
事業活動収入計(ア+ウ+オ)		527.16	527.16		
事業活動支出計(イ+エ+カ+予備費)		513.40	521.80		
事業活動収支差額(A+B+C)		8.36	5.36		

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

予算・決算の詳細は、大学HP「経営・財務情報」に掲載しています。

人事情報

2020年6月 就任教授

医学部 感染症学教室
三戸部 治郎

保健学部 健康福祉学科
加藤 雅江

2020年10月 就任臨床教授

医学部 循環器内科学教室
河野 隆志

学事情報

令和2年9月 卒業生

学部・大学院	人数
医学研究科	5名
保健学研究科	1名
国際協力研究科	11名
総合政策学部	11名
外国語学部	14名
合計	42名

令和2年9月 入学者

大学院	人数
保健学研究科	1名
国際協力研究科	4名
合計	5名

新型コロナウイルス感染症報告

対面授業を基本にデジタル化も推進

今年度は新型コロナウイルスの影響で異例のスタートとなりました。特に新入生の皆さんは入学式の中止だけでなく、授業は自宅での受講となり、期待していた大学生活とはだいぶ異なる状況になり、不安な日々を送られたことと思います。

前期授業の主であった遠隔授業に関しては、学生の皆さんが同じ環境のもとで学習できるようにと、教職員総出で全学生に通信教育環境を調査し、直ちに必要な通信機器の発注を行い、納入され次第貸し出しを行うなど、通信環境の整備を迅速に進めました。全国の企業や教育機関が一斉に通信機器購入に至ったため、納入が危惧されましたが、何とか間に合ったというのが現状であります。

今後、この危機を乗り越えることで、医療や情報通信技術など各分野で大きな進歩を遂げることが期待され、キーポイントは「デジタル化」であると言われています。本学の教育にも積極的に取り入れていきます。

6月以降、緊急事態宣言は解除され、本学でも感染予防に徹して、3密を避ける工夫を凝らし、万が一感染者が出た時のことも考え、医学部附属病院と緊密な連携をとりながら、少しずつ対面授業を再開しております。幸いなことに円滑に対面授業も続けられており、学生の表情も明るさを取り戻してきております。次年度以降も今までの経験を活かし、基本となる対面授業を主に、遠隔授業の良さも取り入れ、2つの方式を組み合わせながら教育に生かしていきます。

学長 大瀧 純一



体制整え安心・安全な医療を提供

はじめに、新型コロナウイルス感染症に対してこれまで当院に多くのご寄付やご支援を賜りまして心から御礼申し上げます。当院は第1波では外来からの軽症例も入院治療いたしましたが、第2波では特定機能病院として東京都からの要請の中等症から重症例のみを入院の対象としております。

外来に関しては、救急総合診療科が中心となり診療しておりますが、患者さんのほとんどは若い人達の軽症例です。三鷹医師会のPCR検査センターや、検査ができる施設も増加するなど、他の医療機関との役割分担が整備されつつあります。今後もインフルエンザへの対応など、地域の医療機関との協力体制がますます重要になるものと考えております。

一方、院内の感染防止対策として、入院患者さんの健康状態の問診や、全身麻酔手術例では全例PCR検査を行うなど水際対策を行ってまいりました。今後は全入院患者さんを検査対象とする予定です。これまで入院例は原則すべて陰圧室で治療しており、今後の患者数の増加に対応するため陰圧室を増やしました。また、職員についても毎朝健康状態の報告を義務づけ、食事時の注意、会食の制限など自己管理を徹底しております。間もなく待望の最新型PET-CTの運用を開始しますが、コロナ感染症以外の医療についても通常どおり診療しております。

当院はこれからも地域の医療機関と協力しながら安心、安全な医療を患者さんに提供してまいります。皆様のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長 市村 正一



新型コロナウイルス感染症への大学の取組み

9月16日から開始した後期授業では、各学部で対面(面接)授業が再開され、キャンパスに活気が戻っています。



9月16日撮影 井の頭キャンパス

キャンパス活動制限指針の策定

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、キャンパスでの活動基準・対応マニュアルを8月に策定しました。10月上旬時点で「レベル1」となる指針は、対面(面接)授業・遠隔授業の併用実施、3密に留意しながら屋内・屋外での課外活動は可、などです。本情報は、大学ホームページで公表しています。

	判断基準	授業	学生・学外者の入構	課外活動	窓口業務	図書館
レベル0	平常時・危機がない場合	通常通り	通常通り	通常通り	通常通り	通常通り
レベル1	自粛要請は出ていないが感染への注意が必要な状態	面接授業と遠隔授業を併用実施	入構可。但し、感染拡大防止に留意	屋内・屋外活動ともに可。但し、3密にならないように留意	窓口業務を実施。但し、感染拡大防止に留意。Web、メール、電話での問合せも積極的に活用	学内者は利用可。但し、限定的な一部サービスの提供(オンラインサービスは利用可)。学外利用者は利用不可
レベル2	緊急事態宣言が発令されていないが、外出の自粛などの要請が出ている状態	遠隔授業を実施。但し、大学が許可した一部のみ面接授業を実施	原則入構禁止。但し、大学が許可した一部施設のみ利用可能	屋外活動は可。但し、3密にならないように留意	オンライン、メール、電話での問合せを中心に実施。窓口での相談、提出等は、事前に事務室の許可が得られた場合のみ可	学内者は利用可。但し、限定的な一部サービスの提供(オンラインサービスは利用可)。学外利用者は利用不可
レベル3	緊急事態宣言が発令されている状態	遠隔授業を実施。面接授業は原則実施しない	原則入構禁止。やむを得ず入構する必要がある場合は、事前に許可が必要	全面活動禁止	オンライン、メール、電話での問合せのみ実施	全面閉館

(井の頭キャンパスの活動制限指針)

キャンパスでの感染症予防対策状況

キャンパス内での感染症予防対策として、教務課や学生支援課等の窓口カウンターに飛沫防止シートを設置、注意事項の掲示、ソーシャルディスタンスを保つ誘導ステッカーの設置、各所で手指消毒薬の設置などを行っています。また、食堂では飛沫感染防止パネルを設置するなどの対策を実施しています。



井の頭キャンパスC棟1階事務室



井の頭キャンパス食堂



席間の距離を保った医学図書館

教職員対象の新型コロナウイルス感染症対策研修

後期授業から全学的に始まる対面授業に備え、付属病院感染対策室の倉井大輔室長(医学部総合医療学教室准教授)による新型コロナウイルス感染症対策に関する研修を9月1日に実施しました。保健学部、総合政策学部、外国語学部等の教職員約380人が、授業の際の注意点、対策について説明を受け、質疑応答を通して理解を深めました。



学部教育の実施状況

2020年度の授業は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、学生の安全を第一に考慮し、授業方法等を用意深く検討しながら実施しています。教室は定期的な換気と扉の開放を行い、マスクの着用、各自登校前の検温など、注意を払いながら実施しています。

◀ 前期学部教育の実施状況 ▶

医学部 付属病院を同じ敷地内に有する状況を考慮し、感染拡大の時期にあった4月から6月は付属病院での臨床実習を含む全講義・実習をオンラインでの受講に切り替えました。

感染状況がやや落ち着きを見せた7月からは、1年生のオリエンテーションをはじめ、徐々に対面での講義・実習を再開し、7月末からは付属病院での臨床実習も感染防止に配慮した形で再開しました。

保健学部 4月中の授業は在宅課題授業とし、5月から6月にかけてはZoomを用いた遠隔授業へ移行しました。また、この間の学内実習、臨地実習は延期としました。

6月22日以降は、対面での授業が始まらないことに不安を抱えている1年生の授業、および2、3年生の学内実習を対面でスタートしました。臨地実習については、感染防止策が十分であると判断された場合のみ実施しました。

総合政策学部 4月は在宅課題授業とし、5月の大型連休明けから、少人数制の演習形式の授業を中心に徐々に遠隔授業に移行し、5月21日より全面的に遠隔授業を展開しました。前期末には学生達へ遠隔授業に対するアンケートを行った他、3日間にわたり1年生の代表学生達と学部長との懇談会を開催し、学生の意見を聞きました。学部が得た貴重な意見は、後期の授業に活かしていきます。

外国語学部 学生にとってより効果的な学修機会を提供するために、各教員が科目の特性に合わせて、課題提示型、オンデマンド配信型、リアルタイム配信型の3つの方法で授業を進め、7月の補講期間には、希望者を対象に対面授業も行いました。また、入学式も中止となった1年生に対しては、少しでも大学の雰囲気を感じて欲しいという思いから、7月28日に新入生歓迎会を開催しました。



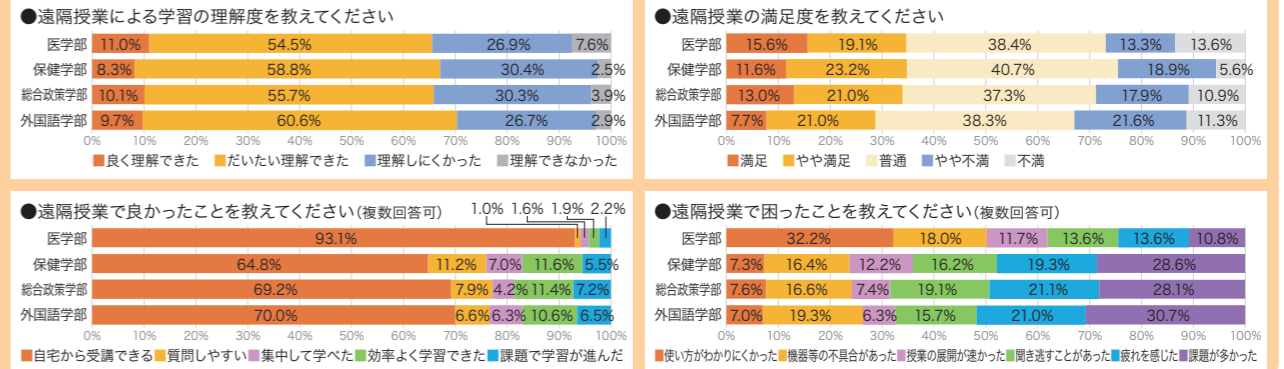
医学部：7月中旬から対面授業が開始された1年生。基礎医学実習の様子(左)
保健学部：6月から学内実習が開始された3年生。臨床工学科の実習(中央)、看護学科看護学専攻の実習(右)



総合政策学部：オンラインで行われた「学際演習」授業の様子(左)
外国語学部：英語学科で7月下旬に行われた補講授業の様子(中央)
観光交流文化学科で8月下旬に新潟県湯沢町と中継し、実施された「フィールドスタディ」(右)

前期遠隔授業 学生アンケート

前期授業終了後に、全学生を対象としたアンケートを学生支援システムUNIVERSAL PASSPORTを用いて実施しました。結果を分析し、各学部での今後の授業に活かしていきます。【アンケート回答率65.5%。結果抜粋】

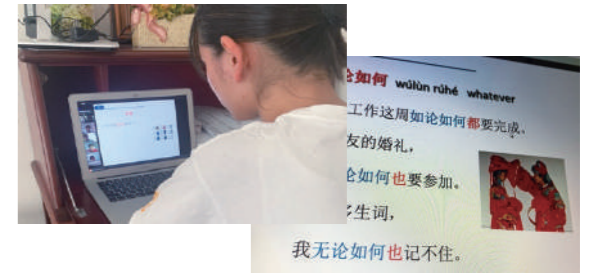


留学・国際交流

北京語言大学中国語研修

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の留学と夏期海外研修は中止となりました。その中で、北京語言大学中国語研修は8月3日から28日の間、オンラインで実施されました。

外国語学部中国語学科2年生の3名は、アメリカやアジア諸国など世界各国の学生と交流しながら、レベル別クラスで中国語の授業を受けたり、文化体験プログラム等を受講し、語学スキルを磨きました。



オンライン英語サロン・中国語サロン・ライティングセンター

学生の語学学習を支援するため、国際交流センターでは、語学サロンやライティングセンターをオンライン(Zoom)でも開講しています。学生達は、語学サロンで趣味や日常生活などについて会話をしたり、ライティングセンターでは、学生が自分の英語課題についてサポートを受けるなど、積極的に受講しています。前期(5月から8月)には、延べ約410人の学生が活用しました。

キャリア支援

キャリア関連講座・ガイダンス

キャリアサポートセンターでは、UNIVERSAL PASSPORT(UNIPA)を活用したオンライン配信、対面形式などを使い分け、各種講座やガイダンスを実施しました。

【実施例】

実施時期	学部	学年	内容	実施方法
4月	保健、総合政策、外国語	1-4年	オリエンテーション、キャリアガイダンス	全学生へUNIPAで情報を配信
5月	保健(看護学科看護学専攻)	4年	面接対策	オンラインで面接練習を実施
6月	保健、総合政策、外国語	3年	インターンシップ、エントリー実践講座	就職支援企業によるオンライン講座をリアルタイム配信
7月	保健、総合政策、外国語	3年	筆記試験対策講座	オンライン実施
	保健、総合政策、外国語	2・3年	業界研究セミナー	3年はオンライン授業で実施。2年はUNIPAで動画を配信

就職面談

キャリアサポートセンターでは、面接練習や履歴書の添削など、就職に関する個別の相談・面談を行っています。実施方法は、対面に加えウェブやメール、電話でも対応しています。



2020年度オープンキャンパス

例年、入学センターと各学部で実施している対面型のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の影響により今年は形式を変え、オンラインでの説明会や個別相談会の実施、動画配信等を行っています。

ホームページ特設サイト「Online Open Campus 2020」では、各学部・学科の紹介や入試概要の動画配信、360度カメラでの撮影によるキャンパスや実習室等の施設紹介も行っています。



学部によるオンラインオープンキャンパス

- 医学部:8月1日(土)【オンラインLIVE説明会】
- 保健学部:10月4日(日)、10月25日(日)【オンライン個別説明会】
- 総合政策学部:8月9日(日)【オンライン個別説明会】
- 外国語学部:8月9日(日)【オンライン個別説明会】

学生広報スタッフがオンライン相談会で高校生と対話

今年度特別公認団体となった学生広報スタッフの15名が、部活・課外活動などのキャンパスライフや学部・学科の授業などを高校生にオンラインで紹介しました。各回とも質疑応答の時間をとりながら、和やかな雰囲気で行われました。



- 総合政策学部:8月18日(火)、21日(金)
- 外国語学部:8月19日(水)、20日(木)

学生表彰

杏林大学では成績が優秀な学生や特別表彰学生(学部が認める資格の取得や課外活動などで顕著な功績を残した者)を例年表彰しています。

2019年度成績優秀学生 ※学年は2019年度時点

学部	学科	(学年)氏名	学部	学科	(学年)氏名	学部	学科	(学年)氏名
医学	医学	(1) 三津山 柚樹	保健	救急救命	(1) ※	総合政策	総合政策	(1) 小野沢 空
		(2) 大東 由香里			(2) 寿賀 蒼音			(2) 宮崎 瞬也
		(3) 澤田 月杜			(3) 佐野 哲平			(3) 小田 智美
		(4) 角田 進			(4) 吉岡 恵理			(3) 月岡 杏菜
		(5) 御影 杏奈			(2) 半谷 綾香			(1) 高見澤 萌香
保健	臨床検査技術	(1) ※	健康福祉	理学療法	(1) 佐藤 竜也	企業経営	企業経営	(2) 磯野 杏菜
		(2) 村田 菜穂			(2) 橋口 夏希			(3) 藤原 詠菜
		(3) ※			(3) 増田 実咲			(1) 松下 友香里
		(1) ※			(2) 森 愛美香			(2) 武田 蒼依
		(2) ※			(3) ※			(3) 大堀 佑斗
看護学	看護学専攻	(1) ※	作業療法	作業療法	(1) 増田 実咲	外国語	英語	(1) 森川 安美夏
		(2) ※			(2) 小西 可奈			(2) 中島 由里加
		(3) 石黒 三貴			(3) 山根 奈那子			(3) 亀谷 京子
		(1) 大島 百絵			(1) 渡部 杏梨			(1) ※
		(2) 池谷 佳奈			(2) ※			(2) ※
看護学	看護学専攻	(3) 笠間 公馨	診療放射線技術	診療放射線技術	(3) 齋藤 航平	観光交流文化	観光交流文化	(1) ※
		(1) 出口 愛純			(1) 関 美春			(2) ※
		(2) 佐藤 彰洋			(2) ※			(3) 原 千裕
		(3) 徳永 千恵			(2) ※			

2019年度特別表彰学生 ※学年は2019年度時点

学部	学科	(学年)氏名	学部	学科	(学年)氏名
医学	医学	(5) 根本 展希	総合政策	総合政策	(2) 相澤 虎大
		(4) 新藤 夏帆			(4) 網谷 紀香
保健	放射線	(2) 小野寺 恭我	外国語	中国語	(3) 森 友梨花
		(4) 笠井 怜瑞奈			(3) 青山 舞香

2019年度学部表彰学生

表彰種別	対象学部	受賞者数
保健学部賞	保健学部	41名
総合政策学部賞	総合政策学部	13名
外国語学部賞	外国語学部	5名

医学部附属病院

心臓や頭部等の検査精度向上のため 高度なアイソトープ検査装置を導入

アイソトープ検査(核医学検査)の最新装置Canon GCA-9300Rが核医学検査室に更新入れ替えとして、7月に導入されました。

最新装置は、一般的に2つある検出器が3つ搭載されていることで、短時間で高画質な検査画像を得ることができます。また、断層撮影に最適な構造であることから、心筋血流の状況が明瞭に解析でき、狭心症や心筋梗塞などの診断能力に優れています。また、脳血流の検査では、アルツハイマー型認知症等の診断や病変の進行状況をより明確に判別できるようになるなど、診断が向上します。



新型コロナウイルス感染症への対応・課題をテーマに地域医療連携に向けた座談会を開催

地域医療機関との連携促進を目的として毎年開催している医療連携フォーラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により今年は見合せとなりました。代替として、地域医療関係者の方々へ新型コロナウイルス感染症対応の現状、役割などについて情報を発信するべく、東京都医師会副会長等との座談会を当院で8月に開催し、地域医療連携におけるそれぞれの役割について意見を交わしました。

テーマ:新型コロナウイルス感染症をめぐる対応の検証とこれからの課題
 登壇者:角田 徹氏(公益社団法人東京都医師会 副会長、角田外科消化器科医院 院長)
 田原なるみ氏(東京都多摩府中保健所 所長)
 内原正勝氏(公益社団法人三鷹市医師会 会長、うちは内科クリニック 院長)
 [杏林大学病院]感染症科診療科長 倉井大輔、HCU病棟看護師長 内田真由美
 司 会:杏林大学病院 脳卒中センター長 平野照之



胸部大動脈治療のオリジナル術式が欧州ガイドラインに採用、世界へ広がる

窪田 博教授を代表とする心臓血管外科と形成外科大浦紀彦教授等のチームは、人工血管の代わりに牛や馬などの異種心膜を用いる大動脈置換術を開発しています。

胸部の大動脈瘤や大動脈解離での一般的な手術法である、ポリエステル素材等の人工血管への置換術は、手術後に感染症などの合併症を起こす可能性が一定数あり、感染症を発症した場合の死亡率は30~70%と高リスクです。そこで窪田教授は2009年に、代替となる術式として異種心膜による上行大動脈置換術を実施しました。これまでの臨床結果では、人工血管を用いた術式より感染症や死亡リスクの大幅な低減につながる等の成果を得ています。2019年にはヨーロッパの外科治療ガイドラインに採用され、推奨術式のひとつとなったことで、70例以上の成功症例が報告されるなど、本術式は世界に広がりを見せています。



窪田 博 教授

ご支援・ご寄付のお願い 『真善美の探究』通じ、人のために尽くす人材を育成します

日頃より、杏林大学を支えてくださる皆様のご支援とご理解に感謝申し上げます。今回は特に、新型コロナウイルス感染症に関連して、学生支援のための教育研究募金や最前線に立つ医療者が治療に専念できる環境を整備するための附属病院へのご寄付を多くの皆様から賜りました。杏林大学は建学の精神「真善美の探究」を通じて、人のために尽くすことのできる人材を育成して参ります。本学が社会への使命をさらに果たしていくために、今後も多くの方々からの力強いご支援を賜りたく、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

■2020年度寄付状況 10月19日現在の寄付の種類別件数と金額等を報告します

【教育研究募金】30件 126,455,000円 / 【医学部附属病院へのご寄付】40件 28,664,007円

種類	使途
教育研究募金	学生への経済的支援・奨学金、教育環境の整備を行います。新型コロナウイルス感染症対策としては、飛沫防止シート等の設置、フェイスシールド・手指消毒液等の整備を行いました。
医学部附属病院へのご寄付	医療設備・環境整備の充実、スタッフへの支援等を行います。新型コロナウイルス感染症対策としては、ウイルス除去装置の導入、陰圧室増設工事、N95マスク・手指消毒液等の整備、飛沫防止シートの設置等を行いました。

●お問い合わせ:杏林学園募金事務局(経理課内) 〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 TEL.0422-47-3226

募金ホームページ





あんず Anzu 2020 | 秋 |

学校法人 杏林学園

2020年10月30日発行

発行 学校法人 杏林学園

企画・編集 広報・企画調査室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL.0422-44-0611